会津の伝統野菜で繋がりを広める

くらし

伝統文化を生かす・守る

人と種をつなぐ会津伝統野菜

長谷川 純一さん
清水 琢さん（左）
【福島県】

長谷川 純一さん

震災以前のこと

うちは分家なんですが農家の5代目として農業をやっていました。冬の間はスキー場の仕事もしていて、地震のあった時も磐梯山の山小屋にいました。

震災から現在

かなりの揺れがあり、まずは安全確保のパトロールをし、家族の無事を電話で確認し、消防団に入っているので、対策本部へと向かいました。津波の映像を見て、ひょっとしたら原発が危ないんじゃないかと思っていた矢先、3号機の爆発があり、本当にショックでしたね。

ハウスの葉物を避難所に届けて、喜んでもらっていたんですが、他所の検査で放射能が検出されて福島県全域の野菜がストップしてしまい、廃棄になってしまいました。そんな矢先、ある取材で清水君と出会ったんです。

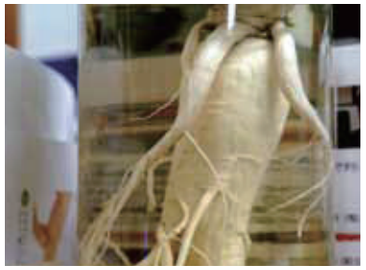
元々、会津伝統野菜を守る会という活動をしていまして、地元の農業高校へ教えにも行っていました。震災では辛い事もありましたが、清水君には「会津御種人蔘を育てたい」という熱意と、這い上がろうとする力強さがありました。今では伝統野菜を一緒になって育てています。

将来のビジョン

行政も何とか伝統野菜を守り育てようとしている。実際に育てる農家は大変な苦労をしなければいけない。でも、個々の農家、地域、集落が繋がる事で力が出てくる。農産物が繋がる事でいろんな人との繋がりも広がる。そんな思いで伝統野菜を作っていきたいですね。

長谷川純一さん　清水琢さん

大量生産大量消費の時代の流れで、日本各地の伝統野菜が姿を消しつつある中、長谷川さんと清水さんは震災を機に会津の伝統野菜の大切さを痛感。「人と種をつなぐ会津伝統野菜」を立ち上げた。伝統野菜とその記憶を大切にし、未来を紡ぐとは何か。2人に語っていただく。



長谷川さんから中高校生へのメッセージ

農業には未来があります。若いうちに是非、食べ物を育てる喜びを体感してください。作物は手を掛けた分だけ応えてくれます。

清水さんから中高校生へのメッセージ

食べるという事は人と繋がるという事。時には作っている人に会いに行ってください。そして、心と体で感じる経験をしてください。

清水琢さん

震災以前のこと

東京で働いていましたが、6年前に家業の漢方専門薬局を継ごうと喜多方の実家に帰ってきました。契約農家さんに依頼してどくだみなどの薬草を集荷し、それを工場で加工し、医薬品等の原料として出荷するという仕事です。

震災から現在

地震が起きた時、お茶の焙煎で火を使っていたので、大急ぎで火を止めて従業員の安否を確認しました。幸い全員無事でした。

震災のあった2011年、実は我が社は過去最高の売り上げを予定していました。ところが放射能の影響で売り上げは激減してしまいました。

会津御種人蔘という江戸時代から続く会津の伝統ある特産品があるのですが、2012年に、作る人が減ったために会津御種人蔘の専門農協が解散するという話が持ち上がり、その中で、加工施設を継ぎませんかという話をいただきました。作る人を増やそうと思い、ベテランの農家を回って話を聞いたりしていたのですが、これは自分で作るしかないと一念発起。2013年に農業を始めました。

伝統野菜を守り育てている長谷川さんと出会い、人と種を繋ぐという思いに共感を覚え、会津御種人蔘を会津の人に愛してもらおう、そして国内の人にもっと食べてもらおうという思いを強く持つようになりました。

将来のビジョン

会津を漢方の里にしたいと思います。薬草を採って来てくれる人、乾燥や選別などに携わってくれる人、そして使ってくれる人。すべての人が元気になるよう、頑張っていきたいです。